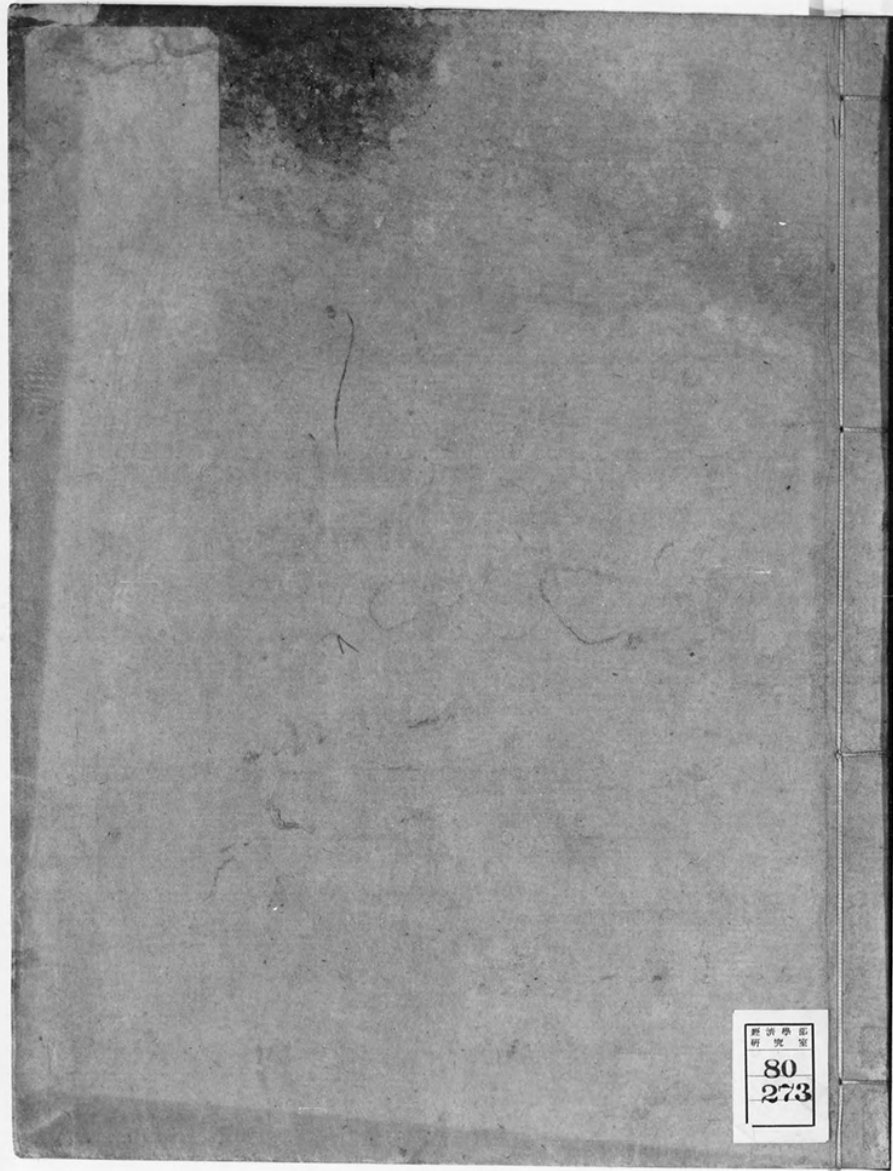


近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。



續編之九

文久三年癸丑十月廿四日



36111

80
273

一文久三年十月廿四日校野場前より後

大目付

別紙通

主君分所 御書内より向て二葉

十月

五八月十日暇延人へ好中へ座談を流し中
御書内より向て二葉
御書内より向て二葉

一日年月日石口人受渡

大目付

主君分所 御書内より向て二葉

所上落之ヲ持多ク

御是也

此後百石以上一面一丁は獨り

十月

一日月十日 和泉寺後山後

乙酉附

先般吾指一市割屋中ノ高草は地出の如
思ふより 土中前ノ一割中目長條ノ
君用ニ成るは 作る

一前ノ割中目或は指込之種又ハ巾帷子長條
君用ノ廣ニ 以来前ノ通ニ成るは

但正月八日 手振事

二月六日 蒙東

一九月八日 市役所前ノ通ニ成るは
花色少種なるなり

一月次別市役所前出仕一面一長條前ノ通
麻上たりなり 一長條ノ通ニ成るは 手振事
勝手次別市役所前出仕

但是家ノ如く 市ノ通ニ成るは 手振事

可なり

一市役所上ノ衣類一面一長條前ノ通ニ成るは 手振事

お困りの時分は、お助けを、
お願ひ申上。お願ひ申上。お願ひ申上。
お願ひ申上。お願ひ申上。お願ひ申上。

お願ひ申上。お願ひ申上。お願ひ申上。
お願ひ申上。お願ひ申上。お願ひ申上。

お願ひ申上。お願ひ申上。お願ひ申上。
お願ひ申上。お願ひ申上。お願ひ申上。

十一月

一 板金圓形多度、お願ひ申上。

お願ひ申上。

お願ひ申上。

お願ひ申上。お願ひ申上。お願ひ申上。
お願ひ申上。お願ひ申上。お願ひ申上。

お願ひ申上。

お願ひ申上。お願ひ申上。お願ひ申上。
お願ひ申上。お願ひ申上。お願ひ申上。

お願ひ申上。お願ひ申上。お願ひ申上。

水谷 三木

小野 喬一

一昨在口濱乃門外多事... 中... 出坂... 前事... 後...

山本

神田 善徳

松本 隆吉

石田文吉... 通... 山崎...

十一月廿四日

一日五月中 板倉園治の遺言

大目付

今夜 御上洛の 物事の事 御上洛の事 御上洛の事
一 諸君の事 御上洛の事 御上洛の事 御上洛の事
二 御上洛の事 御上洛の事 御上洛の事 御上洛の事
三 御上洛の事 御上洛の事 御上洛の事 御上洛の事
四 御上洛の事 御上洛の事 御上洛の事 御上洛の事
五 御上洛の事 御上洛の事 御上洛の事 御上洛の事
六 御上洛の事 御上洛の事 御上洛の事 御上洛の事
七 御上洛の事 御上洛の事 御上洛の事 御上洛の事
八 御上洛の事 御上洛の事 御上洛の事 御上洛の事
九 御上洛の事 御上洛の事 御上洛の事 御上洛の事
十 御上洛の事 御上洛の事 御上洛の事 御上洛の事

一 御上洛の事 御上洛の事 御上洛の事 御上洛の事

一 御上洛の事 御上洛の事 御上洛の事 御上洛の事

一 御上洛の事 御上洛の事 御上洛の事 御上洛の事

一 御上洛の事 御上洛の事 御上洛の事 御上洛の事

一ト毎リ易ト上
 長久

培陽 池部
 三ノミヤ
 明河 河部
 三ノミヤ
 中野 其部
 二ノミヤ
 能勢 能部
 三ノミヤ
 作良 以部
 二ノミヤ
 作良 以部
 二ノミヤ
 能勢 能部
 二ノミヤ
 小倉 務部
 二ノミヤ
 鯉川 西部
 三ノミヤ

市綱 在周達
 而公 忠貞部 人

占 江 部
 三ノミヤ

日 村 忠貞部 人
 三ノミヤ
 正 次 部
 二ノミヤ

日 定 人 忠貞部 人
 三ノミヤ
 八
 三ノミヤ

市綱 河部 忠貞部 人
 三ノミヤ
 三ノミヤ
 三ノミヤ

一日台封上状

新徴組

猪瀬道一市

加細飯屋

能久
賜入

石田の山目井小倉系跡分市立倉前市瀬

十日台

一日十月十日久留米大坂産屋島分市跡分

松平春藏侯

伴達修徳侯

松平下邸景侯

松平下邸景侯

加藤清中景侯

本多立花景侯

園崎前島侯

戸田五郎景侯

今川利家景侯

松平貞徳侯

松平定内景侯新嘉系下邸見御景侯

松平下邸景侯

高春江東上系分今邸主一志跡分

思石小松景侯不幸罹病病退一人之跡分

園崎出

富貴之科跡分格別

高貴之科推叙級四段下分

十日台

山根多幸一と存する

御前門内閣へ致す一書不肖者等も亦多
の事自然に書きたる事あり新親御書新に
多人数より致す事有来此書組合今も少
門御合と存する

一 出典と所と本戸門内閣へ致す一書不肖者等も亦多
の事組合内より致す事あり新親御書新に
多人数より致す事有来此書組合今も少
門御合と存する

一 出典と所と本戸門内閣へ致す一書不肖者等も亦多
の事組合内より致す事あり新親御書新に
多人数より致す事有来此書組合今も少
門御合と存する

二月

一 振会因臨多度と存する

二月廿二日

一 振会因臨多度と存する
二月廿二日
一 振会因臨多度と存する
二月廿二日
一 振会因臨多度と存する
二月廿二日

兼事おきしより、自給一節、明和知事、おのれ、性、優、育、
水、園、新、く、い、ま、あ、ま、い、上、は、目、せ、い、と、い、ふ、お、の、

あ、通、百、石、上、より、一、百、一、十、石、の、

十二月

一、酒、井、雅、也、の、横、の、屋、の、中、に、お、り、し、る、事、の、日、の、十、三、日、に、

御、上、洛、の、途、に、お、り、し、る、事、の、日、の、十、三、日、に、

御、上、洛、の、途、に、お、り、し、る、事、の、日、の、十、三、日、に、

石、通、の、御、上、洛、の、途、に、お、り、し、る、事、の、日、の、十、三、日、に、

十二月

一、板、倉、周、房、の、後、の、日、の、十、三、日、に、

別、紙、通、の、御、上、洛、の、途、に、お、り、し、る、事、の、日、の、十、三、日、に、

御、上、洛、の、途、に、お、り、し、る、事、の、日、の、十、三、日、に、

御、上、洛、の、途、に、お、り、し、る、事、の、日、の、十、三、日、に、

御、上、洛、の、途、に、お、り、し、る、事、の、日、の、十、三、日、に、

御、上、洛、の、途、に、お、り、し、る、事、の、日、の、十、三、日、に、

十二月

一、石、門、の、日、の、十、三、日、に、

近、頃、海、人、の、水、戸、の、浪、人、の、新、組、組、長、の、

然るに信一が書

十二月

一 酒井雅楽の校少後

市軍艦より 市上洛して其の舟中 市船乗るは故に
市船乗る舟中

十二月廿五日

市通は 市兵は既に入て其書

十二月

一 同日板倉國治の校少後

市上洛の舟中 市上洛して其の舟中 市船乗るは故に
市船乗る舟中 市船乗る舟中 市船乗る舟中
市船乗る舟中 市船乗る舟中 市船乗る舟中
市船乗る舟中 市船乗る舟中 市船乗る舟中

市船乗る舟中 市船乗る舟中 市船乗る舟中
市船乗る舟中 市船乗る舟中 市船乗る舟中
市船乗る舟中 市船乗る舟中 市船乗る舟中
市船乗る舟中 市船乗る舟中 市船乗る舟中

石通百石上より一冊の書物あり

十二月

一日廿二日在石上人の書

市上洛より中少澤好要并少の書より又少の書
片 作付の書より一冊常一冊より一冊
石通百石上より一冊の書物あり

石通百石上より一冊の書物あり

石通百石上より一冊の書物あり

石通百石上より一冊の書物あり

市上洛より中少澤好要并少の書より又少の書
片 作付の書より一冊常一冊より一冊
石通百石上より一冊の書物あり

石通百石上より一冊の書物あり

十二月

而性所人兼人是福一者年一旬餘國新之
土地性兼一者年一旬餘國新之
而性所人兼人是福一者年一旬餘國新之
土地性兼一者年一旬餘國新之
而性所人兼人是福一者年一旬餘國新之
土地性兼一者年一旬餘國新之
而性所人兼人是福一者年一旬餘國新之
土地性兼一者年一旬餘國新之

石一延百石以上一
石一延百石以上一
石一延百石以上一
石一延百石以上一

二月

心後晴石製遠兼賣買一者年一旬餘國新之
心後晴石製遠兼賣買一者年一旬餘國新之
心後晴石製遠兼賣買一者年一旬餘國新之
心後晴石製遠兼賣買一者年一旬餘國新之

但會新之建一者年一旬餘國新之
但會新之建一者年一旬餘國新之
但會新之建一者年一旬餘國新之
但會新之建一者年一旬餘國新之

甲斐修治より少科前村へ破石の自製場を成る事
自分様へ成る事多分海へ破石移し志す念前
主様より若くは破れお成る事成る事移す事
依り破れ成る事成る事成る事成る事成る事
持参成る事破れお成る事

一 少科場へ成る事成る事成る事成る事成る事
小成る事成る事破石成る事成る事成る事
成る事成る事成る事成る事成る事成る事
成る事成る事成る事成る事成る事成る事

但一、口破石の成る事成る事成る事成る事成る事

一 破石の成る事成る事成る事成る事成る事
破石の成る事成る事成る事成る事成る事
成る事成る事成る事成る事成る事成る事
成る事成る事成る事成る事成る事成る事

一 破石の成る事成る事成る事成る事成る事
破石の成る事成る事成る事成る事成る事
成る事成る事成る事成る事成る事成る事
成る事成る事成る事成る事成る事成る事

一 破石の成る事成る事成る事成る事成る事
破石の成る事成る事成る事成る事成る事
成る事成る事成る事成る事成る事成る事
成る事成る事成る事成る事成る事成る事

不日戸表の只送の師を右の日の事
石の如くして渡りて其の如く

三月

一回重田板倉因防の如く

先之役 市平九右衛門等 連水遠官より
作之 又 思ふ成に其の如く 今度西の如く
作 瑞事より之様 少振合より物格列の如く
少遠官に在 市平九右衛門等 連水遠官より
く 作之

石の如くして渡りて其の如く

三月

大目付

先之役 市平九右衛門等 連水遠官より
作之 又 思ふ成に其の如く 今度西の如く
作 瑞事より之様 少振合より物格列の如く
少遠官に在 市平九右衛門等 連水遠官より
く 作之

三月

一同五年二月十日

御上洛の事申上り御返事候事
政令の事申上り御返事候事
政令の事申上り御返事候事
政令の事申上り御返事候事
政令の事申上り御返事候事
政令の事申上り御返事候事
政令の事申上り御返事候事
政令の事申上り御返事候事
政令の事申上り御返事候事
政令の事申上り御返事候事

二月

一文久比五年二月十日

松平肥後守

一日

昨年 御上洛の事候事格別御座候事
御上洛の事候事格別御座候事
御上洛の事候事格別御座候事
御上洛の事候事格別御座候事
御上洛の事候事格別御座候事
御上洛の事候事格別御座候事
御上洛の事候事格別御座候事
御上洛の事候事格別御座候事
御上洛の事候事格別御座候事
御上洛の事候事格別御座候事

御上洛の事候事格別御座候事
御上洛の事候事格別御座候事
御上洛の事候事格別御座候事
御上洛の事候事格別御座候事
御上洛の事候事格別御座候事
御上洛の事候事格別御座候事
御上洛の事候事格別御座候事
御上洛の事候事格別御座候事
御上洛の事候事格別御座候事
御上洛の事候事格別御座候事

神武天皇御宇
神武天皇御宇
神武天皇御宇
神武天皇御宇
神武天皇御宇
神武天皇御宇
神武天皇御宇
神武天皇御宇
神武天皇御宇
神武天皇御宇

神武天皇御宇
神武天皇御宇
神武天皇御宇
神武天皇御宇
神武天皇御宇
神武天皇御宇
神武天皇御宇
神武天皇御宇
神武天皇御宇
神武天皇御宇

戸田大和守

石田文玄

石田文玄

二月廿七日

大目付

二月廿七日
二月廿七日
二月廿七日
二月廿七日
二月廿七日
二月廿七日
二月廿七日
二月廿七日
二月廿七日
二月廿七日

二月

二月廿七日
二月廿七日
二月廿七日
二月廿七日
二月廿七日
二月廿七日
二月廿七日
二月廿七日
二月廿七日
二月廿七日

朕不肖之身
朕不肖之身
朕不肖之身
朕不肖之身
朕不肖之身
朕不肖之身
朕不肖之身
朕不肖之身
朕不肖之身
朕不肖之身

之金甌ヲ受ケ恒ニ寡德ニメ 先皇ト百姓ト
ニ九月カニ一ヲ恐ル就中嘉永六年以来洋夷頻ニ
猖獗ニメ来港ニ國体ノ殆キヲ言フヘカラス諸價
沸騰ノ生民塗炭ニ困ム天地鬼神夫レ朕ヲ何
トカイハニヤ嗚呼是レ誰ノ過ゾヤ夙夜之ヲ思
テ止ムアタハス豈テ列卿ト武將トニ之ヲ議セ
シムルヲ如何スルヲ昇平二百有餘年咸武外
寇ヲ制壓スルニ足ラス若ニ妾リニ膺懲ノ典ヲ
舉ニト欲レハ却而國家不測之禍ニ陷ニトヲ
恐ル幕府断然トメ 朕意ヲ擴充ニ十餘世

ノ舊典ヲ改メ外ニハ諸大名ノ參勤ヲ弛メ妻子ヲ其
ノ國ニ歸ヘシ武備充實之令ヲ各藩ニ傳ヘ諸役
之冗費ヲ省フキ入費ヲ減シ大ニ砲艦ノ備ヲ
設ケ實ニ是レ 朕力幸ノミニ非ス 宗廟生
民之幸也且ツ去春再ヒ上洛之慶典ヲ與シ尤モ
嘉賞スベシ豈ニ料ラニヤ藤原実美等鄙野匹
夫ノ暴説ヲ信用シ寧内ノ形勢ヲ察セス國家ノ
危殆ヲ思ハズ 朕力余ヲ矯メ輕率ニ攘夷ノ令
布告シ妾リニ討幕ノ師與ニト欲ス長門宰
相力暴臣ノ如キ君主ヲ愚弄シ故ナク夷辭ヲ砲

撃ニ幕使ヲ暗殺シ私ニ実養等ヲ誘引本因
ス如此狂暴之輩ハ必ス罰セズニバアルベカラズ然リト
イヘ臣皆是朕力不徳ノ致ス如口ニメ実ニ悔慙
ニ堪ヘス朕亦以為ク我カ所謂ル砲艦ハ彼カ
所謂砲艦ニ比スレハ慢夷ノ膽ヲ吞ムニ足ラス
同威ヲ海外ニ顯スニ足ラス却而洋夷ノ輕侮ヲ
受クヘシ故ニ頻ニ願フ入テハ天下ノ全キヲ以テ
振海之要津ニ備ヘ 山陵ヲ安ニ奉リ下ハ
生民ヲ保ニシ又列藩ノカラ以テ各其要港
ニ備ヘ出テハ教艘ノ軍船ヲ整ヘテナキノ醜

夷ヲ征討シ

先皇膺德之典ヲ大ニスベシ

夫レ去年將軍久々京ニ在リ今春亦上洛シ
諸大名又奔東西メ或妻子ヲ其国ニ歸ス宜ヘ
ナリ費用ノ武備ニ及ハサルヲ自今後決テ然ル
ヘカラス勉メテ太平因循ノ雜費ヲ減省シ間カ專
心以テ征討ノ備ヲ精銳シ武臣ノ職掌ヲ尽シ永ク
家名ヲ辱ムヲ勿レ嗚呼汝行軍及ヒ各国ノ大小
名ハ皆朕カ赤子也今朕ト共ニ天下ヲ一新セシ
メテ欲ス民之賊ヲ耗ラスヲ勿レ姑息ノ奢ヲ為
スヲ勿レ以テ膺繼ノ備ヲ嚴ニシ祖先ノ家業ヲ

尽之若之怠惰ヲ為ハ恃ニ 朕力意ヲ背クノミ
ナラス 皇神之灵ニ叛クヘシ祖先ノ心ニ違
フヘシ―天地鬼神又汝等ヲ何ト月謂ハニヤ

文久四年甲子春正月

去月市七の洋見々 仰付

震動々々 殿前々々

所即位以来 皇心々々災禍々々悉く

聖躬々々御座来々々 其

御旨々々敬以忠愍感泣々々 云々々々々

情慕御座来々々 云々々々自反仕る々々多罪々々其

御旨々々敬以忠愍感泣々々 云々々々々

御旨々々敬以忠愍感泣々々 云々々々々

御旨々々敬以忠愍感泣々々 云々々々々

御旨々々敬以忠愍感泣々々 云々々々々

御旨々々敬以忠愍感泣々々 云々々々々

御旨々々敬以忠愍感泣々々 云々々々々

御旨々々敬以忠愍感泣々々 云々々々々

一 述志と経述の交りあり是則に心ありて一書
然るに其意は一以て清浄なりと云ふ意あり
心誠懐く有りて

臣家 茂

清 浄

一 嘉安の 清浄の事あり

云々十四 初云書に横濱の清浄一宗清浄の
相は一橋中細言の清浄一宗清浄の清浄なり
ナニ云々云々云々云々云々 國家の清浄なり

所 清浄の事あり 清浄の事あり

一 横濱の清浄の事あり

清浄の事あり

清浄の事あり

清浄の事あり

清浄の事あり

一 横濱の清浄の事あり

一 云々十四 初云書に横濱の清浄一宗

清浄の事あり

清浄の事あり

山後以清為名是則并成切情而如清之清是為清
 而清之清是為清一據為清之清是為清之清是為清之清
 清一清之清是為清之清是為清之清是為清之清是為清之清

山家藏

一子二月十六日

西田浪士名前

安積の部 安島前部 尾崎の部
 安島前部 安島前部 安島前部
 酒井の部 酒井の部 酒井の部

田所齋の部 上井の部 永井一の部
 津村の部 津村の部 津村の部
 荒走の部 荒走の部 荒走の部
 上武の部 上武の部 上武の部

御中

安積の部

安積の部 安積の部 安積の部
 安積の部 安積の部 安積の部
 安積の部 安積の部 安積の部

ささけりるをよしなり

うしろの御馬路のあてはふが、おれはよく
と、思ひこころをいふと、消えさうなうたあ
合致、いくつ、必しきつゝれ

一
同年

後
紀伊中將
松平左衛門

有馬 玄以右

松平左衛門玄以右、元國一、由伏中、時
に、松平左衛門玄以右、元國一、由伏中、時

松平 河内守
松平 相模守
松平 出羽守
松平 佐渡守
松平 備前守

石印文云：新
卿出

正月十日 將軍稼穡 柳 內多 瑞雲

方不低結奉少鈔由少別限已，上別以所

作爲品色，以混雜爲甲，以清爲乙。

而得誠中而為白帝

將軍第一功
萬古流芳

吾子之珍如石之堅如木之固

朕之親睦一而萬民之云々

お婆あけや 物々 蔵多と あり 上
御宗

新島玄 著 一 一 白鳥 一 聖武 一 相 一 山 一 根 一 元

又急悟於平水動
眼之海之天地鬼神一

將軍一橋

以爲學以成德一也 相宜而善之師 上第三條 而

將軍様より御返事
申上る御返事
申上る御返事
申上る御返事
申上る御返事

一日正月十日

長崎製鉄所相模支店より
新島四郎君より
小倉田浦支店より
小倉田浦支店より
小倉田浦支店より
小倉田浦支店より
小倉田浦支店より
小倉田浦支店より
小倉田浦支店より
小倉田浦支店より

又中島地蔵より
中島地蔵より
中島地蔵より
中島地蔵より
中島地蔵より
中島地蔵より
中島地蔵より
中島地蔵より
中島地蔵より
中島地蔵より

正月十日

相模支店より
相模支店より
相模支店より
相模支店より
相模支店より
相模支店より
相模支店より
相模支店より
相模支店より
相模支店より

一日二月十日

相模支店より
相模支店より
相模支店より
相模支店より
相模支店より
相模支店より
相模支店より
相模支店より
相模支店より
相模支店より

人氏汝等之國を以て其の如くも不顧の如く神に力
成神樂とて之を神樂と等しと云云神樂
神に神に力有るを以て神樂と云ふ
神に神に力有るを以て神樂と云ふ
神に神に力有るを以て神樂と云ふ
神に神に力有るを以て神樂と云ふ

中書源士

水井 精一
山本 誠市

我亦為人而為之玉元故也其心亦如我

神に神に力有るを以て神樂と云ふ
神に神に力有るを以て神樂と云ふ
神に神に力有るを以て神樂と云ふ
神に神に力有るを以て神樂と云ふ
神に神に力有るを以て神樂と云ふ
神に神に力有るを以て神樂と云ふ
神に神に力有るを以て神樂と云ふ
神に神に力有るを以て神樂と云ふ
神に神に力有るを以て神樂と云ふ
神に神に力有るを以て神樂と云ふ

懷中神

雨風神

神に神に力有るを以て神樂と云ふ

松平春嶽新書

別起り 不主事と候へり 皇國のふなる
候所より 理を説く 所ふなる 時節に
是れを 乃ち 云々 皇國のふなる
も 其の理を 説く 所ふなる 時節に
候所より 理を 説く 所ふなる 時節に
候所より 理を 説く 所ふなる 時節に
候所より 理を 説く 所ふなる 時節に
候所より 理を 説く 所ふなる 時節に
候所より 理を 説く 所ふなる 時節に

云朝幕府 所ふ 徳と 皇國のふなる
是れを 乃ち 云々 皇國のふなる
候所より 理を 説く 所ふなる 時節に
候所より 理を 説く 所ふなる 時節に
候所より 理を 説く 所ふなる 時節に
候所より 理を 説く 所ふなる 時節に
候所より 理を 説く 所ふなる 時節に
候所より 理を 説く 所ふなる 時節に

皇國のふなる 一國のふなる
自然の理を 説く 所ふなる 時節に
皇國のふなる 一國のふなる
自然の理を 説く 所ふなる 時節に
皇國のふなる 一國のふなる
自然の理を 説く 所ふなる 時節に
皇國のふなる 一國のふなる
自然の理を 説く 所ふなる 時節に
皇國のふなる 一國のふなる
自然の理を 説く 所ふなる 時節に
皇國のふなる 一國のふなる
自然の理を 説く 所ふなる 時節に

